神戸天然物化学株式会社

2019年3月期第２四半期
決算説明会資料

証券コード：6568

2018年11月28日

コンテンツ

1 会社概要 P.2

2 2019年3月期第２四半期決算実績 P.11

3 当社の事業紹介①（機能材料分野編） P.20

4 Appendix P.23

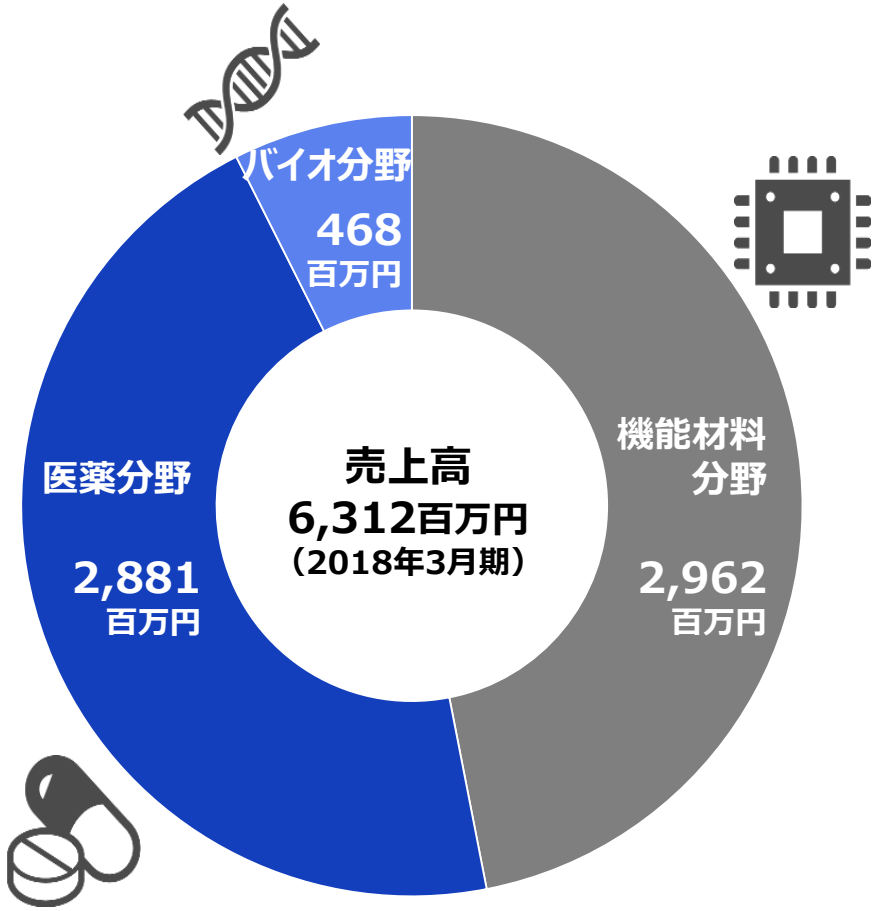
1．会社概要

1-1. 基本情報

会社概要

社　　名	神戸天然物化学株式会社 KNC Laboratories Co., Ltd.
代　表　者	代表取締役社長　宮内　仁志
設　立　年　月	1985年1月
本　社　住　所	神戸市西区高塚台三丁目２番地の３４
事　業　内　容	有機化学品の研究・開発・生産ソリューション事業
役員・従業員数	270名　（2018年9月末）
拠　　点	兵庫県（本社・神戸工場・神戸研究所、岩岡工場 市川研究所、KNCバイオリサーチセンター） 島根県（出雲第一工場・第二工場） 東京都（東京営業所）
総　資　産	12,768百万円（2018年3月末）

売上高構成比

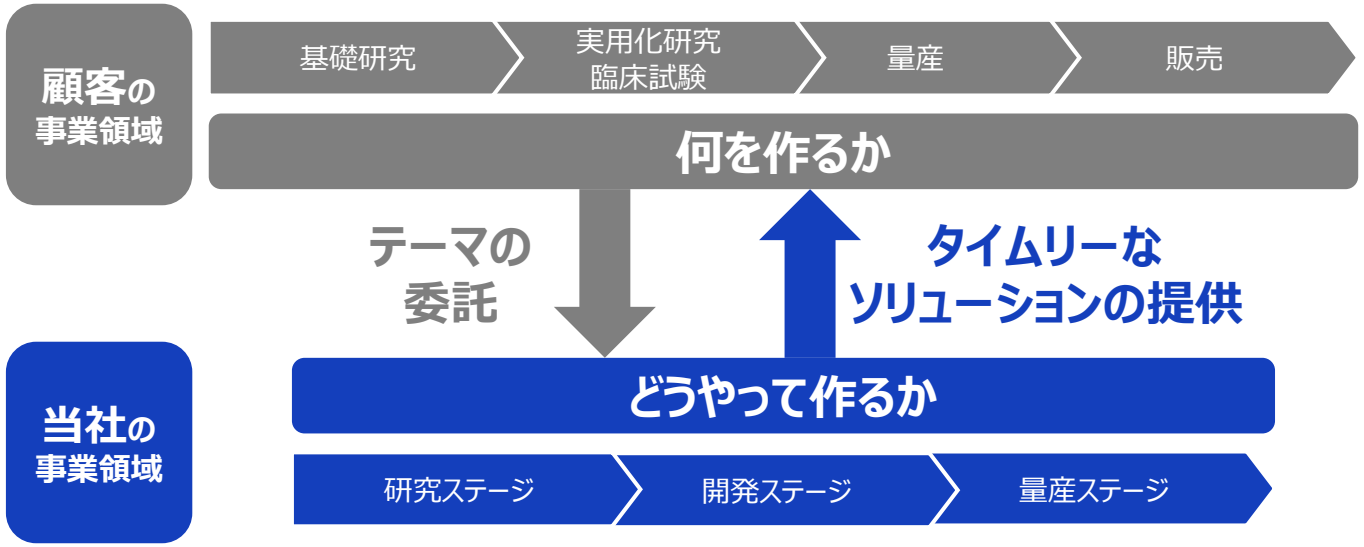


神戸天然物化学：

有機化合物の受託研究・開発・量産を手掛ける先端技術会社

- 機能材料、医薬、バイオの3事業を展開
- 大手化学・製薬メーカーの商品開発にて発生する製造等の難易度が高く、高付加価値な製品・サービスを提供
- 研究・開発・量産とステージアップすることで高収益を獲得するビジネスモデル

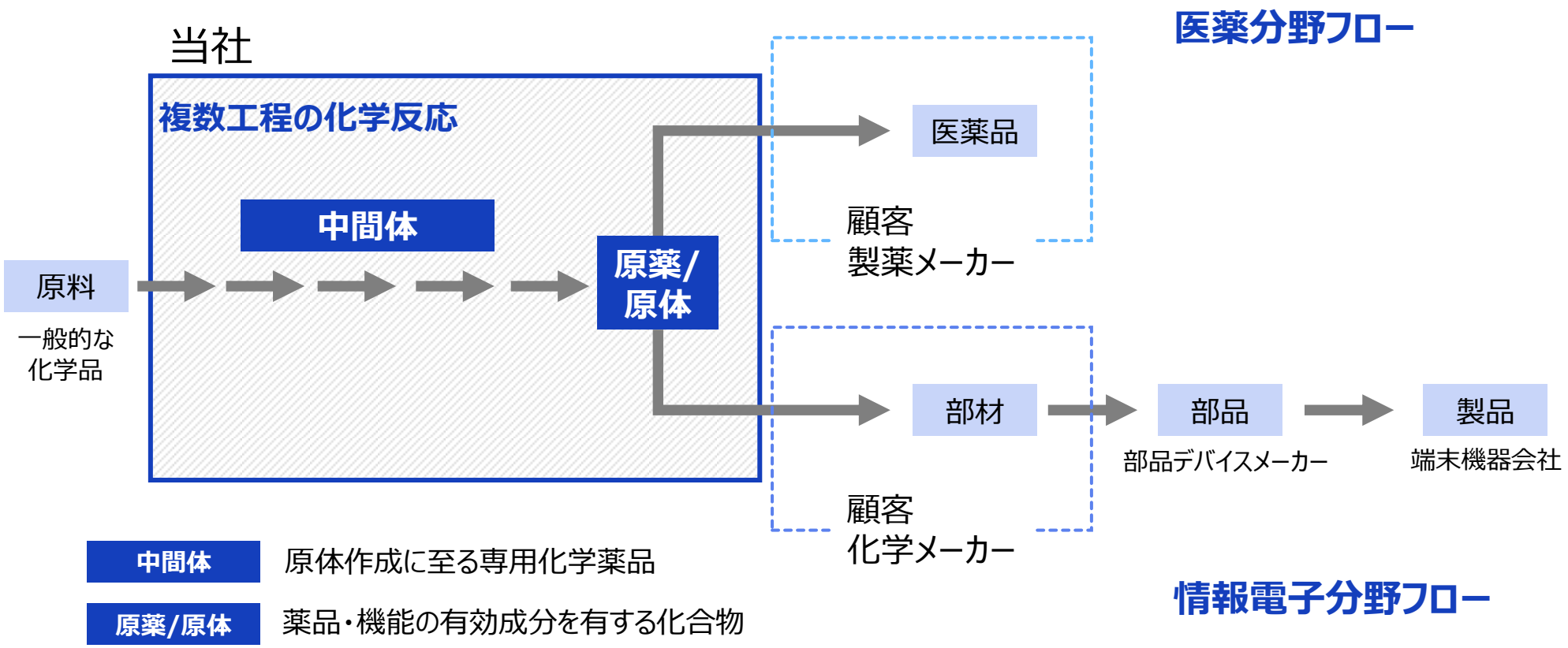
ソリューションの流れ



1-3. バリューフロー

- **一般的な化学品に対し複数工程の化学反応を施すことで医薬分野、情報電子分野で用いる原薬/原体を製造する**

当社のバリューフロー



1-4. 当社のこれまでと今後

＜これまで（創業～2017年度）＞

創業以来、ものづくりに注力
付加価値を高めるために、「SPEED」「工夫」「確実な納品」を遂行
単純受託でなく、顧客と技術面で相互補完的連携と信頼関係を構築

化学合成受託業界において、一定の評価を獲得（＝ブランドの確立）

創業者・広瀬克利会長
（初代社長）

＜これから（2018年度～）＞

化学合成受託から量産までの一気通貫ビジネスモデルの継続・強化
（＝ブランド価値の一層の引上げ）
受託のみならず、自社製品・自社技術の育成に注力

そのためにも、当社の強みをさらに強化する施策に注力する方針

創業者・宮内仁志社長

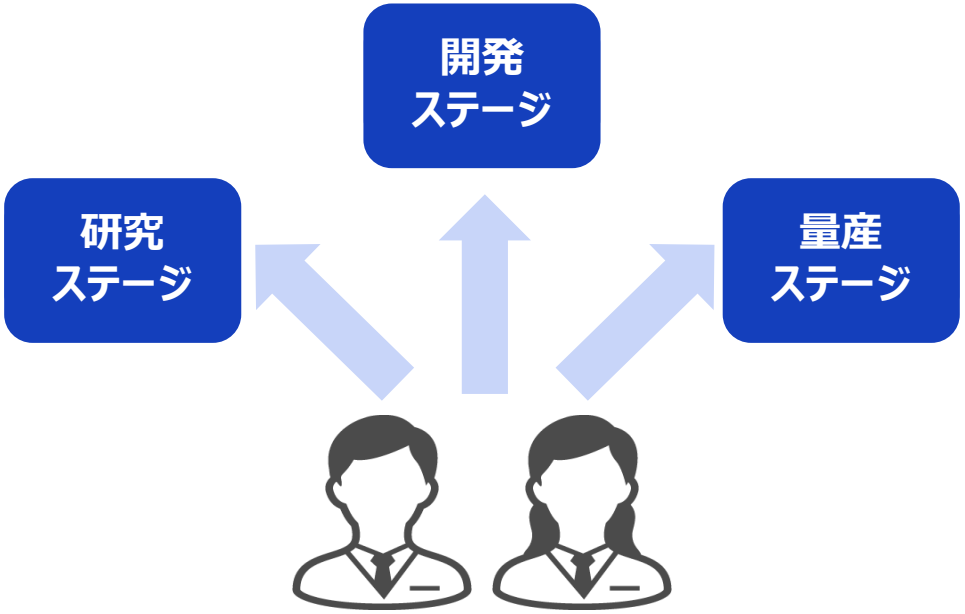
1-5. 当社の特徴・強み

- ✓ 高度な技術者集団
- ✓ ステージアップグロースによるビジネスモデル
- ✓ 優良な顧客基盤

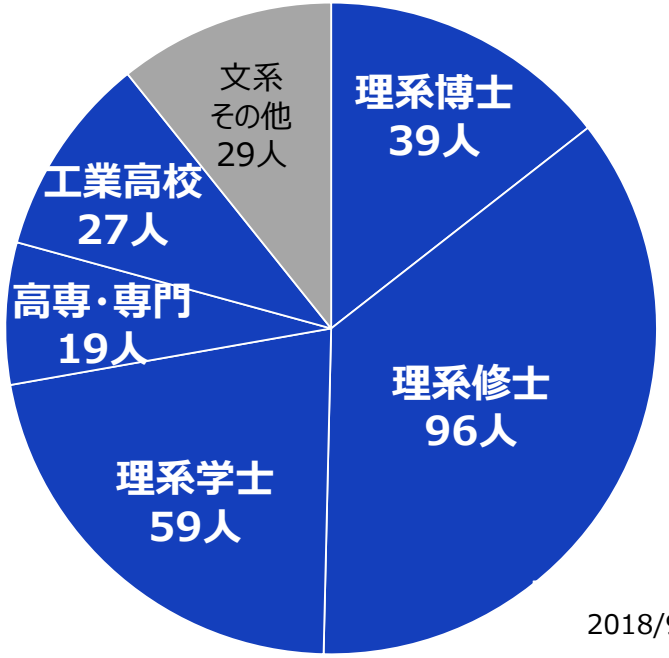
1-6. 高度な技術者集団

- **各人が研究から量産まで幅広いテーマを扱うことでノウハウが社内に蓄積**
- **役員・従業員270名のうち約9割が理系であり、研究・開発ステージを牽引**
- **技術者が営業現場に出るケースも多く、スタッフは幅広い視野を維持**

全てのステージを扱うことでノウハウが蓄積する環境



役員・従業員に占める「理系」社員の割合



2018/9末現在

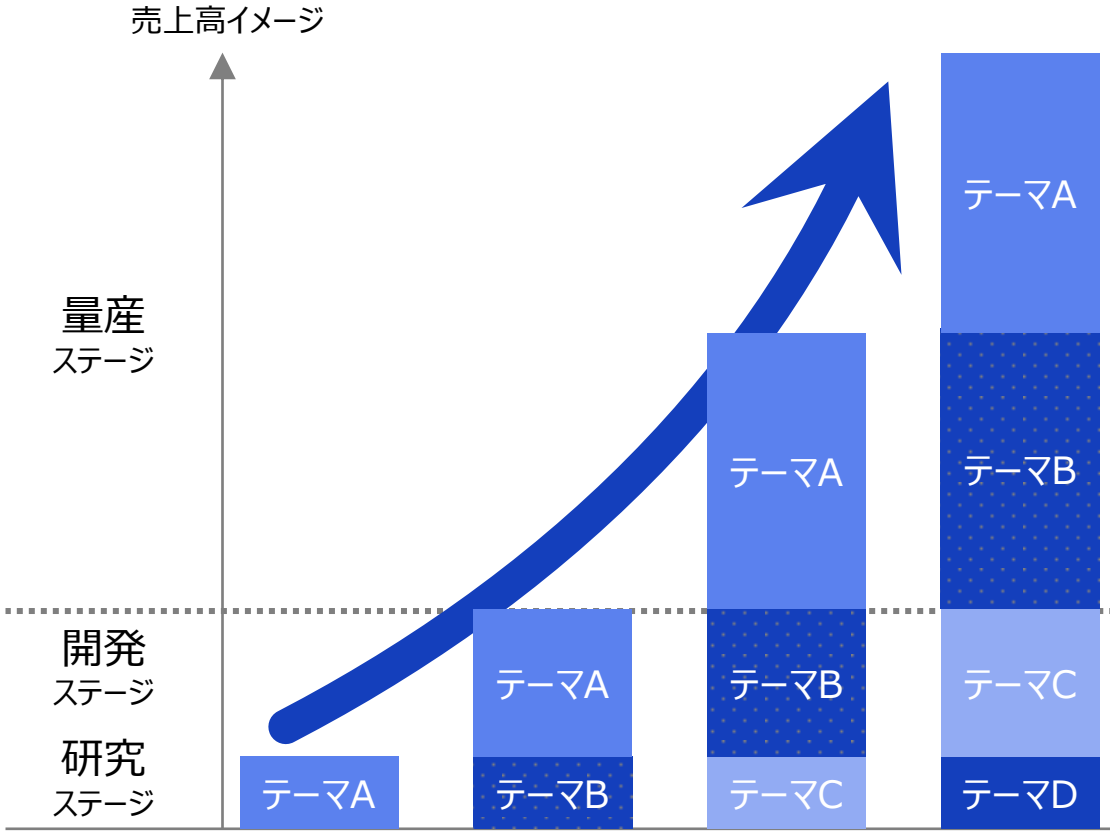
- 社員は研究・開発・量産のあらゆるステージに関与
- 当社の技術、ノウハウ、知見を幅広く習得できる環境

- ソリューションを提供するためには問題発見、解決能力が不可欠
- 当社の社員は入社時点で一定の素養を習得している

1-7. ステージアップグロースによるビジネスモデル

- **研究・開発・量産とステージアップさせ、１つのテーマを大きく成長させるビジネスモデル**
- **量産ステージは継続受注が見込める、ストックタイプの収益モデル**
- **顧客に対してワン・ストップ・サービスを提供**

１つのテーマを成長させ、量産ステージで多くの収益を獲得するビジネスモデル



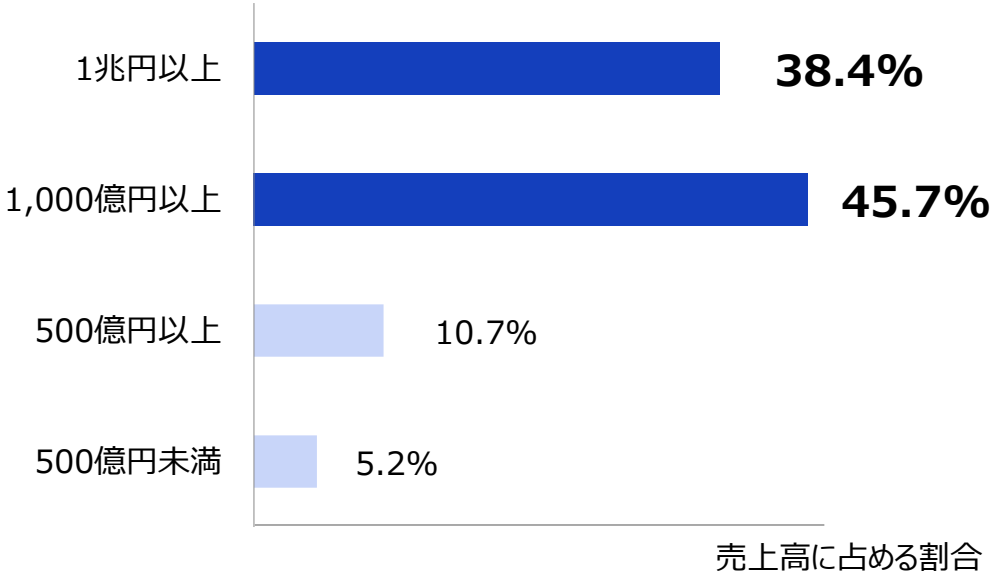
特徴

- 研究開発に成功した一部の製品が量産化される
- 受注が継続し、高い収益性が見込める
- 大型設備投資や生産管理体制の確立（GMP対応等）が必要
- 顧客のテーマ進捗によっては、一過性の受注になりやすい
- 研究員の能力や、ノウハウが必要

1-8. 優良な顧客基盤

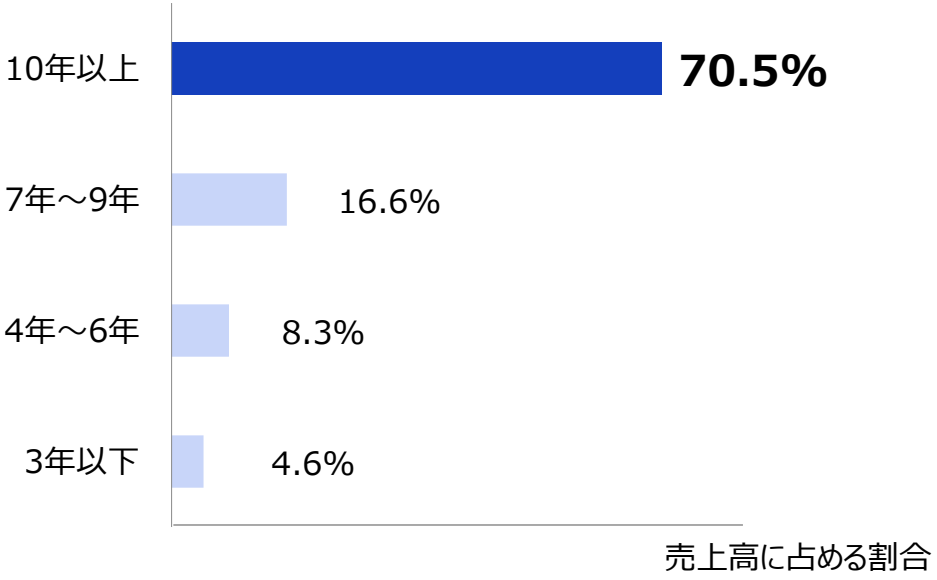
- **顧客の大半は、売上規模1,000億円を超える大手化学・製薬メーカー**
- **長期にわたる取引実績が、顧客との強い信頼関係の証**

顧客の売上規模



注：2018/3期における売上上位50社
（売上高の96.5%に相当）

顧客との取引年数



注：当社の2018/3期における顧客別売上

- 事業規模の大きな顧客との取引が大半を占める
- 過去13年間で累計約620社との取引実績

- 当社の技術力が評価されることにより、信頼関係が深まり、取引が継続される
- 取引年数が長い顧客からは、より大きなテーマの受注が可能となる

２．2019年3月期第２四半期決算実績

2-1.　2019年3月期第２四半期　経営成績

- **売上高はほぼ計画線上にあるものの、損益面ではやや進捗ピッチに遅れ**
- **製品別には、バイオ分野が好調に推移。一方、医薬分野は下期に売上増加の見通し**
- **EBITDAマージンは約30%。前期比では若干の低下も、高水準は維持**

経営成績の推移

（百万円）	2017/3期	2018/3期		2019/3期		前年比較	2019/3期進捗率
		２Q累計	通期	２Q累計	通期見通し		
売上高	4,768	2,885	6,312	2,924	6,450	+1.3%	45.3%
機能材料分野	2,358	1,465	2,962	1,507	2,900	+2.8%	52.0%
医薬分野	1,757	1,306	2,881	908	2,900	▲30.5%	31.3%
バイオ分野	652	113	468	509	650	+4.5倍	78.4%
営業利益	708	627	1,222	514	1,300	▲18.1%	39.5%
経常利益	740	651	1,208	546	1,300	▲16.1%	42.0%
経常利益率	15.5%	22.6%	19.1%	18.7%	20.2%	▲3.9pp	-
当期純利益	484	446	900	407	920	▲27.7%	44.2%
EBITDA*	1,544	1,004	2,004	870	2,164	▲13.4%	40.2%
EBITDAマージン*	32.4%	34.8%	31.7%	29.8%	33.6%	▲5.0pp	-

*　EBITDA＝営業利益＋減価償却費で算出

2-2.　2019年3月期第２四半期　財政状態

- **自己資本比率は76.8%。現預金は新研究所の投資に充当**
- **在庫増はあるも、主体は下期に出荷の集中する医薬分野が中心**

財政状態の推移

（百万円）	2017/3期	2018/3期	2019/3期 2Q	前期末差異	増減率
流動資産	3,185	7,124	5,129	△1,995	△ 28.0%
現預金	1,262	5,413	3,590	△1,822	△ 33.7%
棚卸資産	941	975	1,047	＋ 71	＋ 7.4%
その他	980	735	491	△ 244	△ 33.2%
固定資産	5,653	5,563	6,528	＋ 965	＋ 17.3%
総資産	8,838	12,688	11,658	△1,029	△ 8.1%
負債	4,654	3,951	2,709	△ 1,242	△ 31.4%
有利子負債	3,236	2,256	1,916	△ 339	△ 15.1%
その他	1,418	1,695	792	△ 902	△ 53.2%
純資産	4,183	8,736	8,948	＋ 212	＋ 2.4%
負債純資産合計	8,838	12,688	11,658	△ 1,029	△ 8.1%

設備投資、借入金返済、税金支払などに充当

下期に出荷の集中する医薬分野で在庫積増し

新研究所・本社用の不動産取得

未払費用/税金の支払が集中

自己資本比率76.8%

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を2018/3期の期首から適用したものとして表示しております。

2-3.　2019年3月期第２四半期　キャッシュ・フローの状況

- **営業CFは買入債務/税金の支払から縮小。設備投資も増加し、FCFは一旦赤字計上**
- **しかし、手元資金は潤沢であり、借入金も予定通り返済を継続**

キャッシュ・フローの状況の推移

（百万円）	2017/3期	2018/3期		2019/3期	前年同期差異
	通期	上期	下期	上期	
営業CF	1,247	1,112	1,143	211	△901
投資CF	57	△ 297	△ 400	△1,488	△ 1,191
固定資産取得	△ 508	△ 495	△ 389	△1,384	△ 888
その他	566	198	△ 10	△104	△ 302
FCF	1,304	815	742	△1,276	△ 2,092
財務CF	△ 877	△ 434	3,026	△545	△ 110
借入金の返済等	△ 815	△ 339	△ 639	△339	± 0
株式の発行による収入	-	-	3,703	-	± 0
配当金の支払額	△ 60	△ 90	-	△ 192	△ 102
その他	△ 2	△ 5	△36	△13	△8
現金、現金同等物の期末残高	1,232	1,613	5,383	3,560	+1,946

＊ FCF=営業CF+投資CF　で算出

＜参考＞2019年3月期第２四半期経営成績（四半期別）

- **第2四半期のみでは、前年比18%増収、20%経常減益**
- **売上の拡大基調に変化はないが、研究開発費や人件費増の増加が重石に**

経営成績の推移

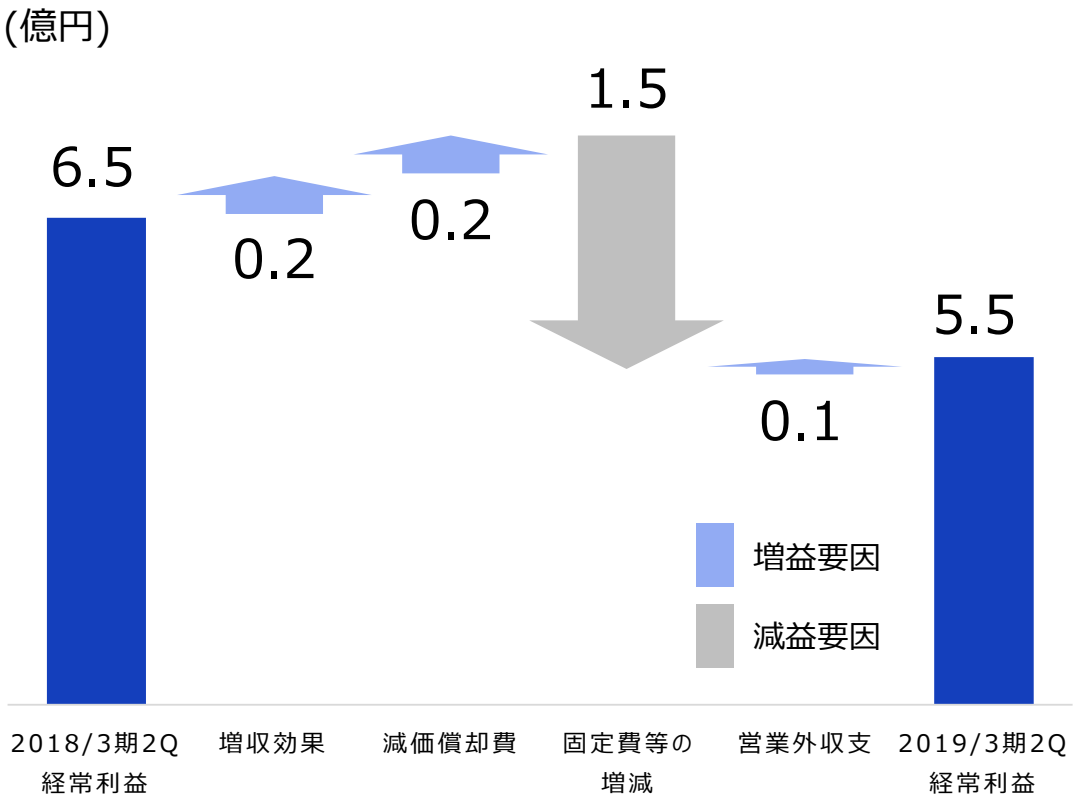
（百万円）	2018/3期				2019/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,606	1,278	1,755	1,671	1,405	1,506
機能材料分野	-	-	-	-	812	694
医薬分野	-	-	-	-	355	552
バイオ分野	-	-	-	-	237	271
営業利益	388	239	443	150	325	188
経常利益	405	246	434	123	348	197
経常利益率	25.2%	19.3%	24.7%	7.4%	24.8%	13.0%
当期純利益	284	162	271	183	255	151
EBITDA**	573	431	643	356	498	372
EBITDAマージン**	35.7%	33.7%	36.7%	21.3%	35.5%	24.5%

* 公認会計士又は監査法人の監査対象外　** EBITDA＝営業利益＋減価償却費で算出

2-4.　2019年3月期第2四半期　経常利益増減要因分析

- **バイオ分野の増収効果あるものの、固定費等のコスト上昇は吸収できず**
- **コスト面では、持続的成長のための研究開発費、人件費投資などが影響**

2019年3月期_第2四半期　経常利益の増減要因



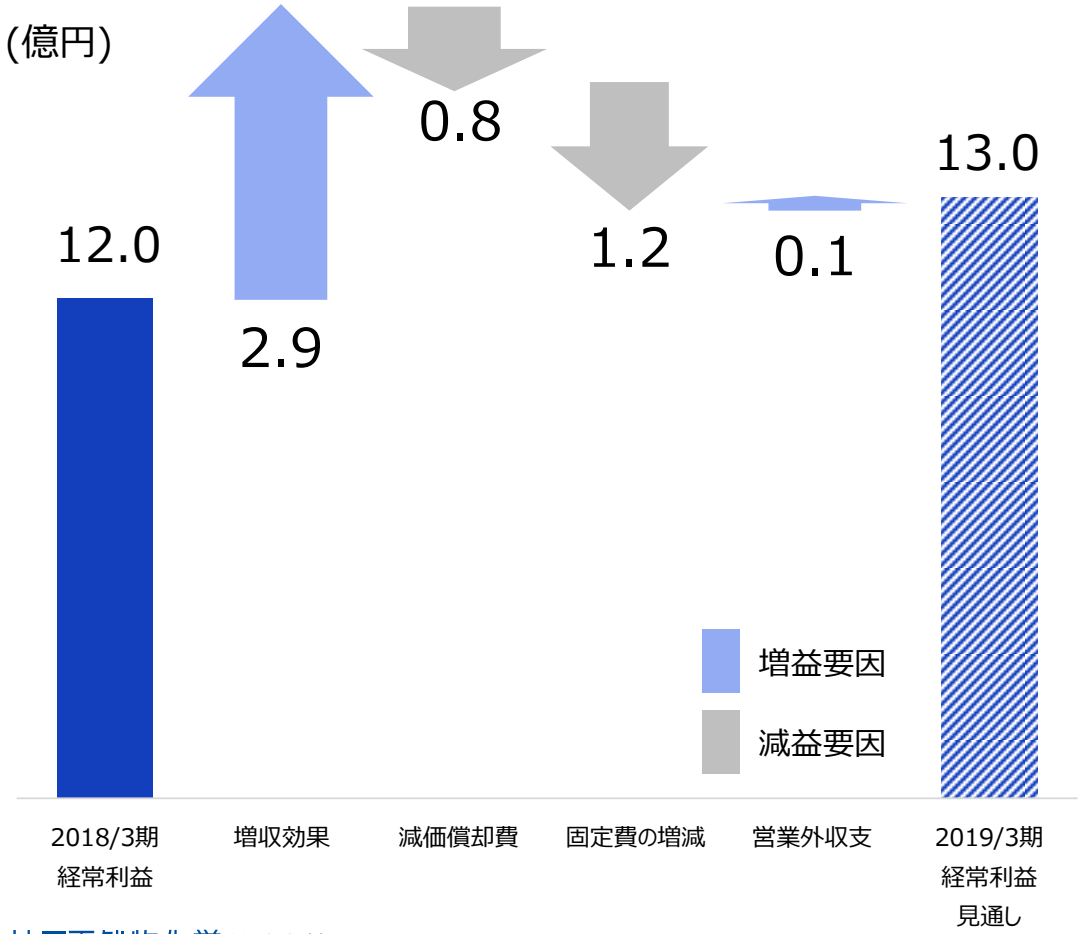
- 増収効果　+0.2億円
  - バイオ分野の売上増が貢献
  - 一方、医薬分野の売上減少・開発コスト増がこの効果を大幅に減殺
- 減価償却費の減少　+0.2億円
- 固定費等の増加　△1.5億円
  - 研究開発費の増加　△0.9億円
  - その他人件費*の増加　△0.1億円
  - 外形標準課税適用　△0.3億円
- 営業外収支の改善　+0.1億円

*研究開発費を除く人件費

2-5.　2019年3月期　経常利益増減要因分析（見通し）

- **医薬・バイオ分野では取引増加。機能材料分野では量産ステージの寄与で採算改善**
- **一方、コストは増加。特別賞与なくなるが、研究開発費が増加。特に、研究開発費は即応求められる分野で積極的に積み増し**

2019年3月期　経常利益の増減要因（見通し）

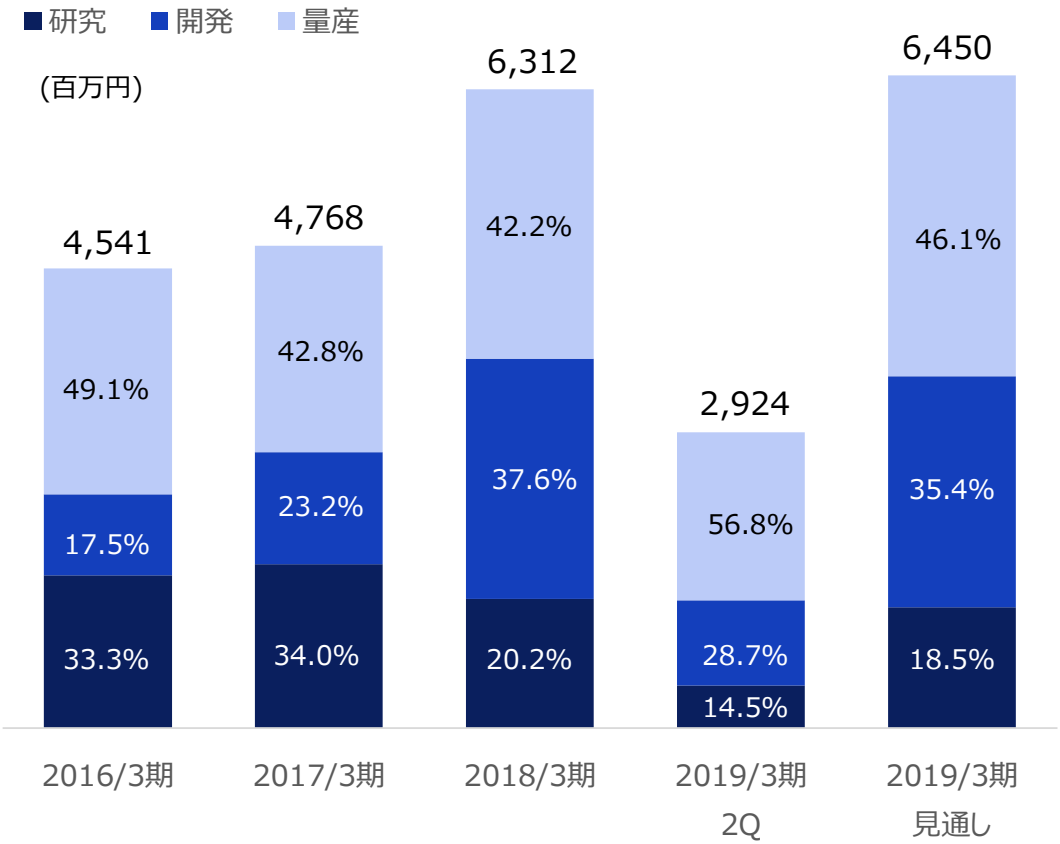


- 増収効果　+2.9億円
  - 機能材料分野：量産製品増で採算改善
  - 医薬分野：量産ステージを中心に下期に売上集中見込み
  - バイオ分野：好調維持
- 減価償却費の増加　△0.8億円
- 固定費の増加　△1.2億円
  - 人員増も、前期特別賞与の消失で人件費減少
  - 一方、バイオ・医薬中心に、即時対応要する研究開発費が大きく増加の見込み
- 営業外収支　+0.1億円

2-6. ステージ別売上高比率

- **2019/3期第2四半期は、概ね予定通りの進捗**
- **研究、開発ステージの売上比率変動は機能材料分野を筆頭に量産ステージが先行した影響。**

ステージ別売上割合推移



※パーセンテージは全社売上に占める割合

- 全社ステージ別売上高は概ね予定通りに推移
- 機能材料分野では、量産ステージが先行。１Ｑに引き続き増産効果が期待できる体制を維持
- 医薬分野では、売上計上が下期に偏る中、開発、量産ステージにおいて計画下回る
- バイオ分野は開発・量産ステージの伸長が、同分野の成長を牽引

2-7.　2019年3月期　配当方針

- **2019年3月期は1株当たり年間25.00円の配当を計画**
- **安定的に配当を実施する方針で、当期については20%程度の配当性向となる見通し**

1株当たり情報の推移

（円）	2017/3期	2018/3期	2019/3期 予想	前期差異	増減率
1株当たり当期純利益	80.72	148.35	119.17	▲29.18	▲19.7%
1株当たり配当金	15.00	25.00	25.00	0.00	+66.7%
配当性向	18.6%	21.4%	21.0%	▲0.4pt	-

注）当社は、2017年８月１日付で普通株式１株につき2,000株の株式分割を行っており、また、2018年１月６日付で普通株式１株につき３株の株式分割を行っておりますが、2017年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「１株当たり当期純利益」を算定しております。
配当性向は、配当金の支払い額/当期純利益で算出しております。

3. 当社の事業紹介①（機能材料分野編）

機能材料生産体制の充実工事着工

- **出雲工場にて、電子部品向け機能材料の「キロラボ工場棟」「研究棟」の建設に着手（2018年8月27日 開示）**

出雲工場概要

第一工場

第一工場

医薬分野における量産ステージ製品の製造

- 低分子医薬品製造工場棟等
- ペプチド・核酸原薬工場棟
- 品質管理棟

第二工場

第二工場

機能材料分野における量産ステージ製品の製造

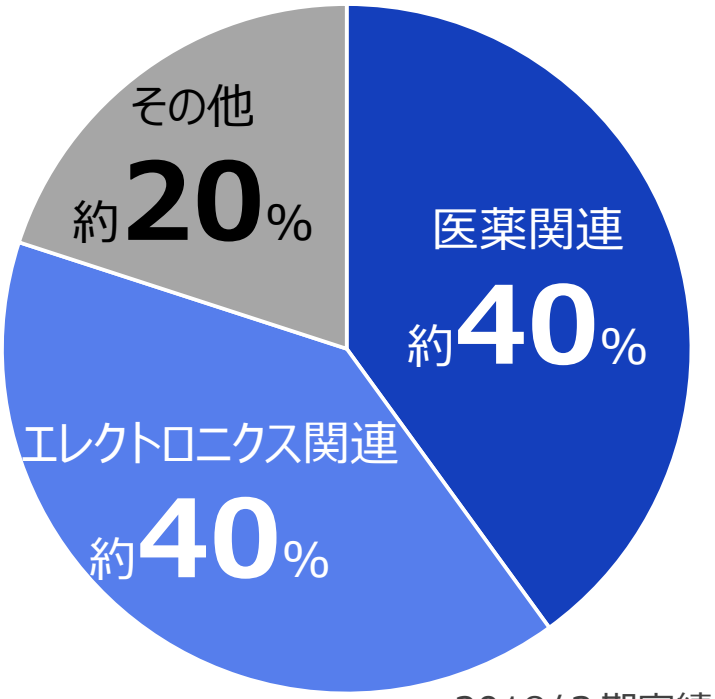
- 量産工場棟
- CNT等分散工場
- New キロラボ工場棟、研究棟

- 完成予定は2019年3月。投資額は約6億円
- キロラボ工場により、高付加価値品のキログラム単位での製造が可能に（通常の製造単位はトン単位）
- ステージ別には、量産ステージを担う既存工場に至る手前の「開発ステージ」案件がその主な対象と想定
- キロラボ工場完成後は、既存工場と併せてシームレスなソリューション提供体制を構築する計画
- 同時に、少量高付加価値な製品供給が可能となる

第二工場　既存量産工場・分散工場

当社の機能材料分野の概要と展望

機能材料分野　の最終需要分野構成比



2018/３期実績

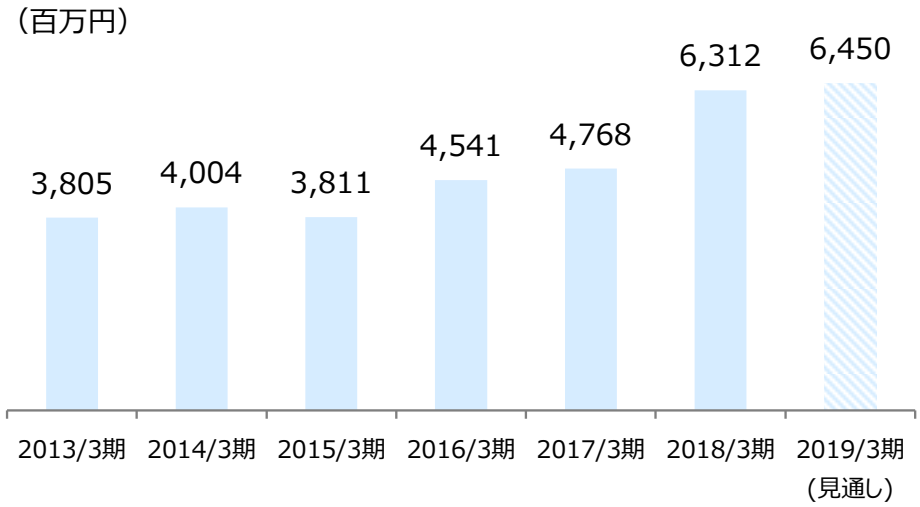
- 機能材料分野製品の最終需要先は、主に医薬関連とエレクトロニクス関連
- 医薬関連は医薬関係法規（薬機法）規制外の有機合成品、核酸合成試薬などを生産
- エレクトロニクス向けではディスプレイ関連の中間部材等を展開
- 研究ステージは神戸研究所が担当、開発、量産ステージは神戸工場、出雲工場が主に担当

- 今後の成長はやはりエレクトロニクス関連が牽引すると想定
- 出雲の新キロラボ工場によって、より高単価な製品の開発、量産化を計画。
当社における中間体/原体の付加価値の一層の引上げを図る

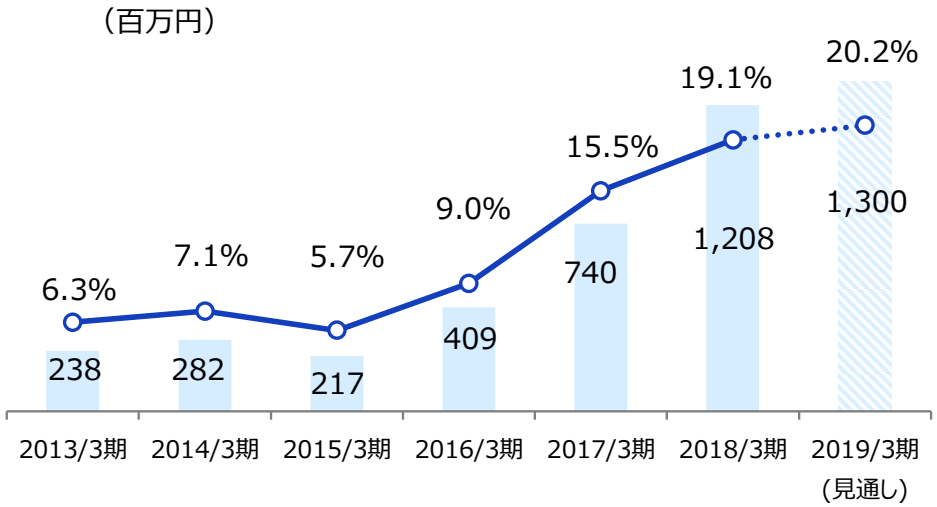
4. Appendix

業績推移

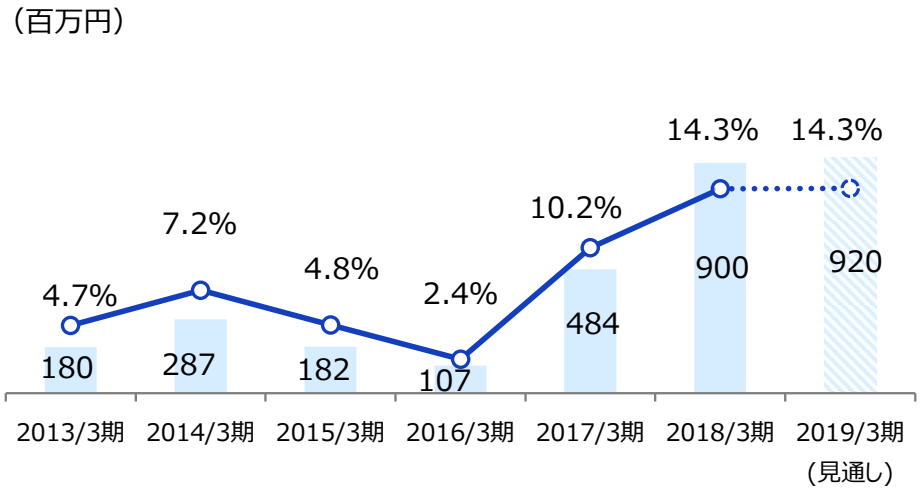
売上高



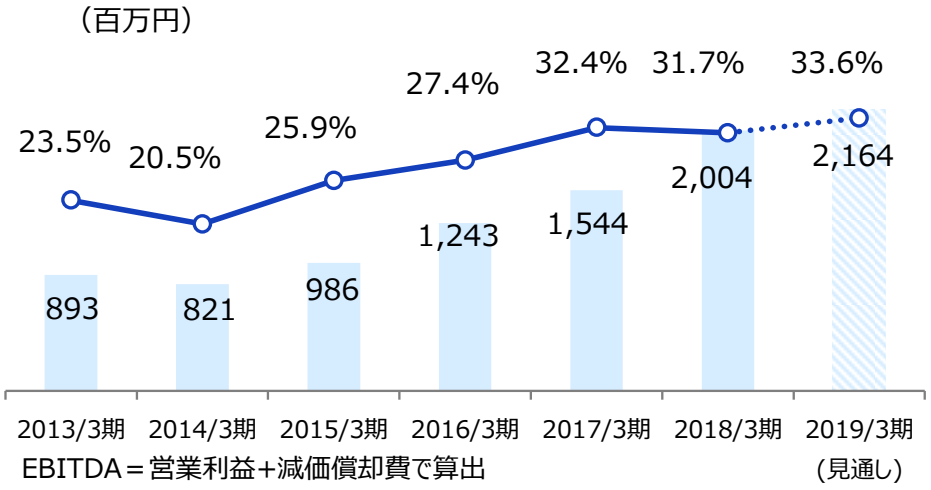
経常利益・経常利益率



当期純利益・当期純利益率



EBITDA・EBITDAマージン



EBITDA＝営業利益＋減価償却費で算出

2016年3月期は連結財務諸表を作成してますが、比較可能性の観点から上記は全て単体の数値を記載

財務ハイライト

項目（単体）		2013/3期	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期
売上高	（百万円）	3,805	4,004	3,811	4,541	4,768	6,312
経常利益	（百万円）	238	282	217	409	740	1,208
当期純利益	（百万円）	180	287	182	107	484	900
EBITDA*	（百万円）	893	821	986	1,243	1,544	2,004
売上高経常利益率		6.3%	7.1%	5.7%	9.0%	15.5%	19.1%
売上高当期純利益率		4.7%	7.2%	4.8%	2.4%	10.2%	14.3%
EBITDAマージン*		23.5%	20.5%	25.9%	27.4%	32.4%	31.7%
現金及び預金	（百万円）	–	–	772	835	1,262	5,413
借入金・社債	（百万円）	–	–	3,978	4,051	3,236	2,256
純資産額	（百万円）	3,189	3,476	3,663	3,783	4,183	8,736
総資産額	（百万円）	6,192	7,267	8,514	8,681	8,838	12,768
自己資本比率		51.5%	47.8%	43.0%	43.6%	47.3%	68.4%
配当性向		11.1%	6.9%	11.0%	55.8%	18.6%	21.4%
役員・従業員数		206人	209人	212人	216人	237人	254人

＊ EBITDA＝営業利益＋減価償却費で算出

Topic　当社が中心となる研究開発事例（抜粋）

分野	現時点の成果	研究テーマ	期間	主な共同研究先	競争的資金/事業母体
中分子医薬	特許出願	正常型CD44mRNAの発現を増加させる核酸医薬の創製	2013年度～2014年度	神戸学院大学	兵庫県COE
	特許出願	前頭側頭型認知症治療薬の開発	2016年度～2020年度	名古屋大学 大阪大学	AMED
	特許出願	オリゴ核酸合成技術の開発	2016年度～	—	—
低分子医薬	特許出願 ジェイファーマ㈱ ライセンス契約	LAT−1選択的阻害活性を有する化合物の創製	2011年度～	大阪大学	医薬基盤研 AMED
	特許出願	アルギニンーバソプレシン1b受容体拮抗作用を有する化合物の創製	2012年度～2013年度	京都大学 大学発ベンチャー	—
	特許出願	メモリー型T細胞活性化材の開発	2014年度～	大阪大学	—
バイオ	ノウハウの蓄積	革新的バイオマテリアル実現のための高機能化ゲノムデザイン技術開発	2012年度～2016年度	神戸大学　等	経済産業省
	ノウハウの蓄積	糖鎖利用による革新的創薬技術開発	2016年度～2020年度	産総研　等	AMED
	ノウハウの蓄積	植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発（助成事業/委託事業）	2016年度～2020年度	キリン㈱ ㈱竹中工務店 味の素㈱　等	NEDO
その他	ノウハウの蓄積	テロメアDNA検出を指向した電気化学活性プローブ化合物の開発	2015年度～2017年度	九州工業大学　等	島根県

沿革

1985年	神戸市西区に神戸天然物化学株式会社設立
1988年	岩岡工場開設
1993年	市川研究所開設
1997年	明石市に本社移転
2001年	出雲第一工場開設
2002年	現在地に本社移転　神戸研究所開設
2003年	大地化成株式会社を買収（2010年売却） 米・KNC Laboratories. Inc., 設立（2007年閉鎖） 中・大神医薬化工（太倉）有限公司 設立（2007年完全子会社化　2016年売却） 神戸工場開設
2005年	KNCバイオリサーチセンター開設
2007年	つくば大学内にKNC-筑波ラボラトリー開設（2012年閉鎖）
2009年	出雲第二工場開設
2013年	出雲第一工場内に医薬品原薬精製・粉砕設備棟を建設 出雲第二工場内にCNT分散体工場を建設
2014年	KNCバイオリサーチセンター内に培養新棟を建設
2015年	出雲第一工場内にペプチド・核酸原薬工場棟を建設
2017年	出雲第一工場内に新品質管理棟を建設
2018年	東証マザーズ上場

ご清聴ありがとうございました。

＜ 見通しに関する注意事項 ＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営企画室　IR担当
078-993-2203（代表）
Knc-IR@kncweb.co.jp